

# 会 議 録

## 1 会議名

令和5年度 第5回上越市自立支援協議会

## 2 議題（すべて公開）

- (1) 上越市障害者計画・第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画（最終案）について
- (2) 令和5年度相談支援ワーキングの活動報告について
- (3) 令和5年度地域生活支援拠点等の活動報告について
- (4) 令和6年度上越市障害者自立支援協議会について
- (5) 令和6年度当初予算における障害福祉に関する事業について
- (6) その他

## 3 開催日時

令和6年2月26日（月） 午後2時から午後3時20分まで

## 4 開催場所

市役所木田第一庁舎 401 会議室

## 5 傍聴人の数

0人

## 6 非公開の理由

なし

## 7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・ 委員：平原委員、江部委員、中屋委員、山口委員、重野委員、阿部委員、芋川委員、池亀委員、吉田委員、松原委員、大久保委員（会長）、富井委員、西山委員
- ・ 事務局：小林健康福祉部長、すこやかなくらし包括支援センター 岩崎次長  
福祉課 丸田課長、橘副課長、八木副課長、小松係長、上田主任

## 8 発言の内容 (要旨)

- (1) 開会
- (2) 挨拶
- (3) 議題

ア 議題(1) 上越市障害者計画・第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画（最終案）について

**【事務局（八木副課長）】**

- ・資料 1-1、資料 1-2 により説明  
(意見なし)

イ 議題(2) 令和5年度相談支援ワーキングの活動報告について

**【平原委員】**

- ・資料 2-1 により説明

**【事務局（八木副課長）】**

- ・資料 2-2 により説明

**【松原委員】**

- ・相談支援事業所の課題として、事業的には赤字で独自採算が困難とのことだが、具体的にどう解決するのか。

**【平原委員】**

- ・その解決策として、複数事業所の協働による相談支援体制を構築するという事となった。
- ・協働体制をとることで、相談支援専門員の配置が 1~2 人の事業所も機能強化型 I という高い単価の報酬を得られ収益を上げることができる。
- ・また、難しいケースを 1 人で抱え込まず、協働する事業所と相談しながら進められるようになる。

**【松原委員】**

- ・手をつなぐ育成会で実施したアンケートによると、相談員にあまり相談しないという人が多く、もっと積極的に相談員とコミュニケーションをとるよう働きかけを行おうとしているところである。
- ・そうすると相談支援事業所への相談件数はさらに増えると思うが、計画相談

ではない基本相談は無報酬なので、協働体制による報酬の増加だけで、はたして赤字がなくなるのか疑問である。

- ・例えば、現在、無報酬となっている基本相談にも報酬単価をつけられないかなど、相談支援事業所の赤字を解消するために国へ働きかけをしようと思っていたが、様子を見ることにする。
- ・いずれにせよ、相談員を増やしてほしい、また、質を上げてほしいという要望は変わらない。

#### 【平原委員】

- ・そのあたりは次年度以降、相談支援部会等で協議できれば良いと思う。
- ・今回は1つのステップであり、次のステップをまた考えていければ良いと思う。

#### 【池亀委員】

- ・相談員に進路の相談をしようとする、進路のことは学校と保護者で決めてくださいと言う方もいれば、逆に何も言わなくても自ら色々な事業所にあたって情報提供してくれる方もいて、相談員によって対応が違う。
- ・もちろん保護者と学校が相談して進路を決めるのは当たり前だと思うが、私たちよりも遥かに事業所の情報を持っている相談員と一緒に考えてもらいたいと思うことが多々ある。
- ・どこまでが相談員の業務で、どこまでお願いできるのか未だにわからないが、何か一覧みたいなものはあるのか。

#### 【江部委員】

- ・以前から特別支援学校の卒業生の進路というのは課題である。
- ・基本的な考え方として、当時、進路の先生から学校を卒業するまでの主体は学校であるので、進路に相談員が介入しすぎるなという話を受けたことがある。
- ・しかし徐々に時代が変わり、3年生だけでなく、早期の対応が必要な場合は、2年生や1年生のときから進路に関わるようにしている。
- ・学校の働き方改革が進み、モニタリング会議などについても様々な意見がある中ではあるが、形式的な会議にとらわれず、卒業後どこで活動していくかについて、一度、学校と相談員、そして利用者も含め、丁寧に話し合う場を設けることが必要と感じている。

**【平原委員】**

- ・個別のケースによって抱えている課題も違うので、一概にこういう流れで関わっていきましようとするのは難しい。
- ・江部委員がおっしゃったとおり、どういう形で支援していくのかということ協議する場があってもよいと思うので、次年度以降、福祉課と検討できるとよい。

**【松原委員】**

- ・進路は卒業後を見据えて決めるのが通常であり、卒業前だから学校で決めて欲しいというのは違うのではないか。
- ・事業所の詳しい話がなかなか聞けないということで学校の先生も困っているので、相談員からも積極的に進路の相談に関わっていただきたい。

**【江部委員】**

- ・相談員が進路相談に関わらないと言っているわけではない。
- ・ケースによって関わり方は違うが、当然、進路に関して意見をさせていただく。
- ・一方で、ご本人がどんなに障害が重くても、ご本人の人生はご本人のものだと思うので、それを考えていく上で、相談員も支えるし、学校も支えるし、保護者も支えるが、そういった話し合いをする場が必要だということをお話した。

**【松原委員】**

- ・自己決定は大事だが、情報がたくさんあってからの自己決定なので、相談員の積極的なアドバイスや情報提供が必要だと思う。
- ・ケースバイケースなのかもしれないが、要は消極的だということを受け止めていただきたい。

ウ 議題(3) 令和5年度地域生活支援拠点等の活動報告について

**【事務局（小松係長）】**

- ・資料3により説明

**【松原委員】**

- ・要望だが、活動報告として相談を受けた件数が記載されているが、そのうち

どれだけ解決したかという数字もわかるとよい。

- ・どこまでを解決とするかは難しいと思うが、解決件数が増えることで質が上がったという指標にもなるので、そういう欄があると良いと思う。

エ 議題(4) 令和6年度上越市障害者自立支援協議会について

【事務局（八木副課長）】

- ・資料4により説明

【松原委員】

- ・専門部会について、昨年度は、重心医療的ケア部会、福祉人材育成部会、就労支援部会の3部会でいろいろと検討し、最終的には問題が明確化され、こうするべきであるという方向性が示されて終わっている。
- ・これをそのままにしておくは無駄になってしまうので、誰がどう解決するのかという結論を出さなければならないと思う。
- ・これまでずっと同じように立ち消えで終わってしまっているの、解決までいけるように継続して協議をお願いしたい。

【事務局（八木副課長）】

- ・昨年度の専門部会で示された方向性について、市として検討すべき事項もあるが、場合によっては、くらし部会やこども部会においても協議しながら、課題を解決できるように進めていきたいと考えている。

オ 議題(5) 令和6年度当初予算案における障害福祉に関する事業について

【事務局（丸田課長）】

- ・資料5により説明

【山口委員】

- ・障害福祉サービス事業所整備事業の予算が、今年度と比べ1,400万円ほど減額となっているが、これは整備の要望がなかったということか。

【事務局（丸田課長）】

- ・お見込みのとおりである。

カ 議題(6) その他

(意見なし)

9 問合せ先

健康福祉部福祉課 TEL : 025-520-5694

E-mail : fukusi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。